

名大の時間

とりあえずやってみようの精神

への期待と大きな不安を抱えて、地元から遙か遠く離れた名寄の地に、私は足を踏み入れました。入学当初、大学での学びは、私の思い描いていたものとは、かけ離れていました。新型コロナウイルスの影響により、オンライン授業が基本となり、調理実習では人数制限、グループワークなどはほとんどありませんでした。

そのため、人と関わり合いが薄く、孤独に感じる日々を過ごしていました。そんな私の大学生活に光を与えてくれたのは、私が勇気を振り絞って話しかけた一人の友人です。友人と一人暮らしへの不安や寂しさを共感し励まし合えることが私の心の支えとなっていました。

大学生活では高校

生活と比べて、自由に使える時間や行動の選択肢の幅が大き

く広がることを実感しました。自分自身の選択によって何をやるのかは、自分次第です。私にとって新しいことに挑戦するのは勇気が必要ですが、挑戦を積み重ねることで少しずつ自分に自信がもてるようになりました。

はじめは、前述した友人とアルバイトに挑戦し、計画して旅行に行くなど、私にとって初めてのことに少しずつ取り組めました。この経験から、大学でのボランティア活動に積極的に参加することや、プロジェクト活動で外部の方々との協働にも取り組むなど、活動の幅を広げることができ、多くのことを学びました。

はじめは誰かとのサポートが少し低くな

り、私の中で「とりあえずやってみよう」の精神を身につけることができました。私は来年度から4年間学んだ名寄市を離れ、国家試験を経て、地元で管理栄養士として新たに学びと経験を培っていきます。ふと、来年の今頃には自分が当たり前に見ているこの景色を味わうことができなくなる少し寂しくなる時があります。だからこそ残された名寄での大学生活を、様々なことに挑戦し、人との関わり合いを大切にしながら過ごしていきたいと思えます。

栄養学科4年

松田奈々